

平成23年度
筑波大学法科大学院
[ビジネス科学研究科法曹専攻]
(専門職学位課程) 入学試験

論文試験問題

(150分)

受験番号	氏名

注意事項

- 1) この問題冊子の表紙に、受験番号、氏名を記入してください。
- 2) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 3) 試験開始後、この問題冊子が、この表紙を1頁として数えて、余白頁(2, 10~12の各頁) 含め計12頁であること、答案用紙が5枚(1枚目:問Ⅰ-1、2枚目:問Ⅰ-2、3枚目:問Ⅱ-1、4枚目:問Ⅱ-2、5枚目:問Ⅱ-3) あることを確認してください。
- 4) 試験開始後、5枚の答案用紙それぞれに、受験番号を記入してください。
- 5) 筆記用具は、鉛筆又はシャープペンシルを使用してください。消しゴムを使用することができます。
- 6) 下書きは、問題冊子の余白頁を適宜利用してください。
- 7) 答案用紙の余白には何も書かないでください。解答や下書きを書くこともできません。
- 8) 問題冊子は持ち帰ることができません。答案用紙とともに提出してください。
- 9) 試験開始後30分間、試験終了前10分間は、退出できません。

(余白頁)

問 I 以下の文を読んで、次の各問に答えてください。(配点 30 点)

[問 I - 1]

チアリーダーのキャプテンの父親と、コーリーの母親に代表される主張の基礎には、どのような考え方が横たわっていると思いますか。600字以内で書いてください。

[問 I - 2]

あなた自身はこの問題をどのように解決しますか。400字以内で書いてください。

[問 I の文]

出典 : マイケル・サンデル著・鬼澤忍訳『これからの「正義」の話をしよう』
(早川書房 2010 年) 238 頁。

(* 問題文の掲載を省略します。)

(出題者注)

* 本文中の注は省略した。

問Ⅱ 以下の文を読んで、次の各問に答えてください。(配点70点)

〔問Ⅱ - 1〕

傍線部①において筆者は、「福祉国家と優生学はおよそ対極に位置するもののように思える」と述べていますが、なぜですか。

〔問Ⅱ - 2〕

傍線部②において筆者は、「事実はむしろ逆で、福祉国家の建設を目指して出発したワイマールの時代に、優生学は、社会意識の面でも、また具体的な政策の面でも、ゆっくりと、しかし着実にドイツ社会に根をはっていた」と述べていますが、「福祉国家」を標榜するワイマール共和国において優生政策が「根をはっていった」理由として、筆者はどのようなことをあげていますか。

〔問Ⅱ - 3〕

現代社会は優生学と訣別したと言い切れるでしょうか。現代社会の中で実際に生じている具体的な問題をあげつつ、あなた自身の見解を述べてください。

〔問Ⅱの文〕

出典：米本昌平・松原洋子・櫛島次郎・市野川容孝『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか—』(講談社現代新書 2000年)74～84頁[市野川容孝]。

(出題者注)

- * 原文中の見出、図表は省略した。また原文中、本問引用部分以外の箇所を指示する記載も省略した(その部分は、以下文中では[略]と示した)。
- * 縦書き原文中漢数字は算用数字に直した。

(＊実際の問題冊子の5～9頁にかけて掲載された問Ⅱ問題文ならびに10～12頁の余白頁を省略します。)